



移動
販売

高齢者一人ひとりの
暮らしに寄り添う

卷頭特集

就職活動に迷っていた大学3年の時、「ニュースで聞いた

「買い物弱者」「買い物難民」という言葉。

まさに祖母のことだと考え、移動販売が地域で必要になつてくると感じた。まさに大学に通いながらスタートさせ、10年が経つた。

人懐っこい飾らない笑顔で
相手の懐に入り込む

過疎地の高齢者にむけて、紀北町や尾鷲市、大紀町で移動販売の軽トラックを走らせる世古真央さん。大学在学中に起業し、今では一児の母となつた。「店に小さいベッド置いて、車でまわるときは厨房のメンバーにみてもらおうかなと思つて」と、産後2カ月で復

帰。根っからの仕事人であるが、一番の理由は、きっと真央さんを待つ顧客の存在。みんなの顔が頭にちらついているに違いない。

大学時代は紀北町から伊勢まで通学していた真央さん。祖父の免許返納と同時に、自身が運転免許を取得した。祖母の運転手となり、休日は一緒に過ごすほどの「じいちゃん、ばあちゃんこ」。「近くにスーパーがあつても車がないと買

い物に行けないんかな」と、田舎の事情を話す。自分の住む地域でますますそういった人が増えていくと考え、移動販売を始めた。当初は同い年の従業員と2人でまわっていたが、退社すると「時間を気にしなくてよくなつたので、ちよつとしたこと、簡単な手伝いをするようになつて。携帯の番号登録や電球えたり、布団干したり、雨降つてきたらばっと洗濯物取り込んだり。わたしからしたらすごい簡単やし」と真央さん。そこから「おつかい便」が定着していく

上) 出産当日の朝も出勤したという真央さんと、長男・智大ちゃん。開業に向けて父親が背中を押し、母親は早朝から弁当づくりを支える 下) 「ルージュの伝言」が集落到着の合図



上) 出産当日の朝も出勤したという真央さんと、長男・智大ちゃん。開業に向けて父親が背中を押し、母親は早朝から弁当づくりを支える 下) 「ルージュの伝言」が集落到着の合図

学生時代を振り返ると、仲良くなるまでに時間がかかるタイプだったと分析する。「人と関わるの好きなのに、人見知りやから壁をつくつ

い便」がはじめた移動販売

儲かればと地域に必要とされる仕事に

天職と思える仕事に出会つた真央さんが、買い物に悩む地域のお年寄りの暮らしを支えている。

information



まおちゃんのおつかい便
紀北町長島2187-15
☎0597-47-0467
7:00~16:30ごろ/日曜定休